

予防行動への介入を考えている方々へ

ゲイ・バイセクシュアル男性の性的指向・予防行動に関する考えや行動のレベルには、相当個人差があります。また、メンタルヘルスの観点からHIV予防行動について検討する必要性が当事者から示唆されています。従って、性的指向に対する肯定度や予防行動、そしてメンタルヘルスの状況にも十分配慮し、個別性に基づいた多層的な予防介入が求められていると言えるでしょう。予防行動の心理・社会的要因についてゲイ・バイセクシュアル男性自身の洞察を促すような試みも、重要な働きかけの1つでしょう。

ゲイコミュニティに所属する当事者だからこそできる介入もあれば、逆に何らかの専門性を有した非当事者であるからこそ可能な介入もあると考えられます。非当事者による介入において対象となるゲイ・バイセクシュアル男性たちとの間で信頼関係を築くには、まず彼らのライフスタイルや置かれている状況の全体像を、偏りなくニュートラルに理解しようという姿勢が不可欠です。その上で、相手がゲイ・バイセクシュアル男性だからといって構えることなく、積極的に専門職としての技術や知識を彼らに提供することが求められています。その際には、当事者であるゲイ・バイセクシュアル男性自身が持っている問題意識や、「自分たちも変わりたい、変えたい」という動機づけや主体性を尊重し、活かすことも大切です。

ただし、メンタルヘルスやセックス、HIV感染という話題は、一般的にはタブー視されがちな上に、個人のごくプライベートな部分に触れることであるだけに、介入の対象者に様々な感情的反応を喚起する可能性があります。介入することが対象者に傷つきや不快を残す体験にならないよう、その時々への感受性と配慮が必要だと言えるでしょう。

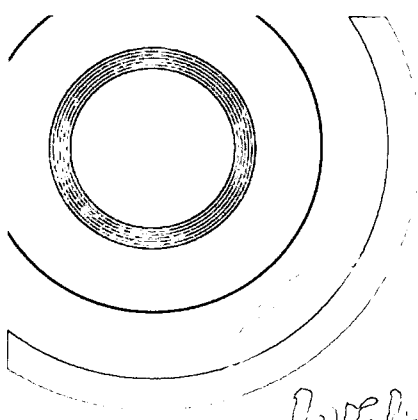
調査研究をする方々へ

ゲイ・バイセクシュアル男性などの「男性とセックスをする男性（MSM）」を、HIV感染の「ハイリスクグループ」と位置付けた調査研究を安易に実施することは、対象の個別性を見失ってしまう危険性と、彼らに付与された社会的スティグマを強化する危険性があります。そのため、介入の前提となる客観的な事実や、介入の意図をきちんと説明することが重要です。

また、性行動やメンタルヘルスについて調査することが、対象者側には侵襲的と感じられる危険性にも注意しないと、対象を意図せずして傷つけたり、信頼関係を築けなくしてしまうことにもつながりかねません。

調査研究結果については、できる限りゲイコミュニティや研究参加者に対してフィードバックすること、そしてその結果をもとに彼らの利益につながるような提言や介入を行っていくことが求められています。

彼らは、興味本位ではなく学術的で真摯な関心をもとに、彼らに対する理解を深めようとする調査研究には、積極的に協力する姿勢を持っています。



Handwritten text, possibly a signature or initials, located below the circular drawing.

厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策研究事業
男性同性間の HIV 感染対策とその評価に関する研究
平成 19 年度 総括・分担研究報告書

発行日 平成 20 年 3 月 31 日
発行者 主任研究者 市川誠一（名古屋市立大学）
発行所 研究班事務局
名古屋市立大学大学院看護学研究科感染予防学研究室
〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1
TEL 052-853-8089
印刷 (株)丸和印刷

本報告書に記載された論文及び図表には著作権が発生しております。
複写等の利用にはご注意ください。